編集委員会だより

「PF ニュース」からのお知らせ

平成 24 年度の PF-UA の発足に伴い，PF ニュースはウェブ版が主体となりましたが，引き続き冊子版も発行し，ご愛読を賜り感謝致します。今後も新しい企画記事の連載など誌面の充実につとめ，PF ニュースをより魅力あるものにしていきます。ウェブ版 PF ニュースには，冊子版では白黒となっている図等もオリジナルのカラーのものを掲載しています。ウェブ版もお楽しみ頂ければと思います。

ウェブ掲載時にはメールでお知らせするシステムも運用しています。希望される方は，どうぞご登録下さい。
（https://www2.kek.jp/imss/pf/pfnews/oshirase.html）

PF ニュース編集委員一同

投稿のお願い

【最近の研究から】
PF で行われた実験，研究の成果をお寄せ下さい。
【建設・改造ビームラインを使って】
特にビームラインの改良点, 他のビームラインとの比較，要望等を是非お聞かせ下さい。
【ユーザーとスタッフの広場】
PF での実験の成果等が認められ受賞された方，海外放射光施設に滞在，訪問された方，国際会議等に参加された方，修士論文等，どうぞご投稿下さい。また PF に対するご意見等がありましたら是非ご投書下さい。

詳細は PF ニュース HP をご覧下さい。

宛　　先

〒 305-0801　茨城県つくば市大穂 1-1
高エネルギー加速器研究機構
物質構造科学研究所　放射光実験施設内
PF ニュース編集委員会事務局
TEL：029-879-6196　FAX：029-864-2801
Email：pf-news@pfiqst.kek.jp
URL：https://www2.kek.jp/imss/pf/pfnews/

編集後記

これまでさまざまな放射光施設を利用してきましたが，PF には他の施設と比べて，良い意味での「ゆるさ」があると感じています。私は PF で，蛍光 X 線ホログラフィーという局所構造解析手法を用いた実験を行っています。実験に利用しているビームラインはユーザー主体で運営されており，複数の研究グループが協力して利用することで，比較的柔軟にビームタイムを運用できています。もちろん，その分ユーザーが装置の管理などを担う必要もありますが，実験の進め方に裁量があることは大きな魅力です。また，PF では 2 年間のプロジェクトとして課題が採択されるため，長期的な計画を立てやすいこともありがたく感じています。限られたビームタイムでは，どうしても測定を優先し，学生に実験をじっくり教える余裕がなくなりがちですが，PF では学生に装置を操作してもらいながら，時間をかけて実験を進めることが比較的容易です。こうした環境は，測定効率や研究成果といった数字には表れにくいものですが，研究や教育を陰で支える重要な要素だと思います。日頃からビームラインの運営を支えてくださっている皆様に感謝するとともに，今後もこのような PF の魅力が受け継がれていくことを願っています。（K.K.）

＊ 2026 年度 PF ニュース編集委員＊

委員長	田辺　幹雄	物質構造科学研究所		
副委員長	佐々木大輔	慶応義塾大学 理工学部		
委　員	朝倉　大輔	産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域		
	宇佐美徳子	物質構造科学研究所	城戸　大貴	物質構造科学研究所
	君島　堅一	物質構造科学研究所	木村　耕治	名古屋工業大学 物理工学科
	阪田　薫穂	物質構造科学研究所	志賀　大亮	東北大学 多元物質科学研究所
	千田　美紀	物質構造科学研究所	高木　宏之	加速器研究施設
	松井　高史	富士フイルム（株）解析技術センター		
	三石　夏樹	名古屋大学大学院 理学研究科		
	山本　　達	東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター 兼 多元物質科学研究所		
	湯川　　龍	東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター		
事務局	加世田　薫	物質構造科学研究所		